



チームI
中川 忠則 議員

▼八百九十六自治体「削減の可能性」について

Q 日本創成会議の人口減少問題検討分科会の推計で八百九十六の自治体が削減の可能性があると公表され、本市も含まれている。若い世代を残すため、通勤手当、住宅補助、保育料や給食費の無料化など、どれか一つでも思い切った政策を打ち出す考えはないのか。
A 子育て支援と若者支援は表裏一体として取り組みたい。

Q 過疎対策事業を活用し、若い世代を残すため、通勤手当、住宅補助、保育料や給食費の無料化など思い切った政策をできないのか。
A 少子化、産業振興、雇用対策、生活環境の整備、教育の振興等に有効に活用していきたい。

▼市職員採用試験の方針を見直しについて

Q 学力重視でなく、面接回数を増やし企画力、営業力、提案力を持った人物重視の採用試験を導入してはどうか。
A 人物重視の採用方法など、採用試験の見直しに向けて取り組みたい。

▼市職員数と非常勤職員の数と職務分担について

Q 市職員と非正規職員の人数は。
A 正職員が三百八十八名、非正規職員が二百三十五名である。

Q 非正規職員の賃金総額と市職員の時間外勤務手当の実績は。
A 二十四年度決算では、非正規職員の賃金が約三億七千万円、時間外勤務手当が約一億五千万円である。

Q 非正規職員も多く雇用しているのにスピードアップが図られないのか。
A 目標、区切りを定め、常にスピードアップして業務を行っていききたい。

▼新庁舎建設予定地の津波に対する安全性について

Q 本市では最大七メートルの津波発生が新聞で報道されたが、新庁舎予定地の津波の高さはどれくらいか。
A 現庁舎付近では、四メートルの予測であり、地盤の高さが三・七メートルあるので、浸水は三十センチメートルの予測である。

▼日本サッカー協会「心のプロジェクト」について

Q 市内の全ての五年生に本年度実施できないか。
A 日本サッカー協会等とも協議して、早く実施できるように進めたい。



平成会
濱崎 志清 議員

▼長崎がんばらば国体に向けての市の取り組み

Q ごみ収集日に路上に出されているごみは、美観的によくないと思うが対策は考えているのか。
A 国体で来島される方々が通行すると思われる道路等については、ごみ収集車の予備車両を活用し、ごみの放置時間短縮に努めたい。また、市内小・中学校や花いっぱい運動ボランティアによる競技会場周辺等への花プランター設置や、担当部局によるグリーンロード、霊丘公園、総合運動公園への植栽など環境美化に努めたい。

Q 観光における取り組みはどうか。
A ジオパークを初めとする、各観光スポットや温泉、食やお土産など、ホームページや観光パンフレットなどで島の魅力の情報発信に努めたい。全国からの来島者にはおもてなしの心で歓迎し、国体終了後もリピーターとなってもらえるよう取り組みたい。

▼ふるさと納税について

Q これまでの実績と、お礼の品についての取り組みはどうか。

A 平成二十三年度が五百三千万円、二十四年度が三百四十四万五千円、二十五年度が二百五十五万五千円となっている。お礼については、現在、寄附金額に応じてポイントを付与し、保有するポイントで本市の特産品カタログから選べるような制度づくりを始めており、市内ホテルの宿泊券なども含めて検討したい。

▼町内会・自治会への補助金について

Q 島原半島三市の状況はどうか。
A 一団体当たりの補助金は、島原市は均等割二万五千円と加入世帯割千二百円の合計額。雲仙市は加入世帯割千円以内、加入人口割五百円以内、集会所割(維持管理費の二分の一以内)のほか活動割、防犯灯割、敬老活動割の合計額。南島原市は加入世帯数の区分による平等割と、納税組合の納付戸数による基準額と納税率に応じた成績割りの合計額が交付されている。

Q 町内会長、自治会長の身分の取り扱いについてはどうか。
A 島原市では任意団体の長として報酬等はないが、雲仙市と南島原市では条例で非常勤の特別職として位置づけられ、報酬が支払われている。

【その他の質問項目】

◇ 「農の雇用事業」について